

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 中津川工業高等学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和6年2月27日(火) (意見書の最終回答日 3月12日)
- 3 開催場所 書面開催
- 4 参加者

会 長	松井 進	本校同窓会長
副会長	磯村 重之	本校育友会長
	新田 正己	坂本地区民生委員長
	加藤 早苗	株式会社大同キャスティングス
	尾関 里恵子	株式会社デンソーテン 中津川製作所
	佐々木 瞳	三菱電機株式会社 中津川製作所
学校側	加藤 昌宏	校 長
	伊藤 岳明	教 頭
	斉藤 良成	事務長
	藤浪 元明	教務主任
	水谷健太郎	生徒支援主事
	山田 豪	進路支援主事
	後藤 昭博	工業部長

5 会議の概要(協議事項)

(1) 本年度の学校の取り組みについて

<委員からいただいた意見>

- ・ 本年度は、コロナも5類に移行され様々な行事が再会や制限のない状態で実施でき良かった。ただ学習意欲の低下が心配される生徒の増加が気になる部分である。対外的な行事も実施できており、今後もコミュニケーション力や主体性・積極性を養う活動の継続を期待する。
- ・ 中学校への出前講座などとても良い試み。人に教えることで学びが身につくと思うので継続をして欲しい。
- ・ コロナ後、生徒の意識の変化により様々な対応が必要となった時期に、学校として適切な対応ができた。
- ・ 昨年度延期していた3年生の修学旅行が無事実施でき良かった。今まで制限等により控えてきた学校行事をこれからは元気に活発に行い、生徒たちの良き経験、良き思い出にして欲しい。
- ・ インターンシップに関して、新規企業も開拓して対応されているとのことで、弊社も引き続き協力しますので今後もお声がけを。
- ・ 生徒はコロナ禍を経て、コロナ前と大きく生活様式が変わった部分があったが、5類移行に伴い徐々に活動範囲が戻りつつある状態であることが分かった。

(2) 自己評価・関係者評価報告書について

<委員からいただいた意見>

- ・ 少子化に伴い定員割れはどの学校も直面する問題。解決策は一校でどうにかなる問題ではない。
- ・ 企業側からすると御校の生徒は是非採用したい人材であるため、定員に満たない状況が非常に残念。出生数の減少など大きな問題もあるが、定員獲得に向け頑張ってもらいたい。
- ・ どの教科も ICT を利用することも大切だが、どう使うかで生徒のやる気を引き出すことを考える。また、外部と連携してソフトなどを作成してはどうか。
- ・ 中学校への出前講座や課題研究の成果をみると、活躍している様子が分かる。今後企業と関わるなど、さらに進めて欲しい。
- ・ 授業や部活動を通して、社会人として必要な力を身につけることに努めている。入社する皆さんが非常に礼儀正しく真面目に業務に取り組む姿勢に繋がっている。

(3) 課題研究発表会について（各科代表作品集を見ていただいて）

<委員からいただいた意見>

- ・ 自分にはこういった能力・技術がないだけに高校生にしては良くやっていると感じる。即戦力として技術を習得して欲しい。
- ・ これだけのことができれば、一部でも企業とコラボレーションして少しでも意識の向上が計れると良い。
- ・ 工業関係の知識が乏しいため技術的なことは分かりませんが、ライントレーサー製作やペルチェ素子を用いた保冷保温の研究など楽しく読ませていただいた。
- ・ 全ての作品が独創的な発想力と遊び心により生み出された作品で、非常に素敵な取り組みである。

6 会議のまとめ

- ・ インフルエンザによる学級閉鎖が多くなり、課題研究発表会の見学を中止し紙面開催とし、委員の方々には各学科で行われた課題研究発表会の発表資料をご覧頂いた。生徒の作品や研究内容に対し高い評価を頂いた。
- ・ 体育祭や文化祭において制限を設けず実施でき、委員の方々からは生徒にとって良い体験ができたという評価を頂いた。
- ・ 課題研究においては、企業とのコラボレーションについて来年度考えていきたい。
- ・ 地元企業からの求人依頼は多く期待も大きい。企業内で中心となり活躍できる生徒の育成が必要である。
- ・ 委員の方々からは学校に対して高い評価をいただいている反面、少子化による定員割れについて東濃東部として大きな課題である。